

令和元年度

「高志の国文学」情景作品コンクール

入選作品集



令和元年度「高志の国文学」情景作品コンクール入選作品一覧表

○文芸部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
知事賞	中学生	未来の私へ～伝えたい、あの日の思い出～	散文	富山市立堀川中学校	3	村中 恵李花	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	越中諸道を歩いて	短歌	高岡高等学校	2	細川 依純	街道をゆく4

○文芸（散文・詩）部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
金賞	中学生	おおかみこどもの雨と雪をよんで	散文	富山市立速星中学校	2	小林 由依	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	「人」は人で変わる	詩	富山高等学校	1	濱本 萌々子	サマーウォーズ
銀賞	中学生	私のところを引きつけるもの	散文	富山市立堀川中学校	1	森川 真尋	おおかみこどもの雨と雪
		それぞれ別の生きる道	詩	富山市立速星中学校	3	原 夢々	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	人を強くさせるもの	散文	高岡高等学校	2	寺拝 和奏	サマーウォーズ
		ほしかったもの	詩	大門高等学校	1	大川 直哉	ドラえもん
銅賞	中学生	劔岳 点の記をみて	散文	富山市立速星中学校	2	柚木 風南	劔岳 点の記
		未練	詩	射水市立小杉中学校	1	江島 優吾	サマーウォーズ
		本当の自分	詩	富山市立速星中学校	3	渡辺 紗彩	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	私と「朝床」	散文	富山西高等学校	3	中島 美紅	越中万葉
		歌からふるさとを知る	散文	高岡高等学校	2	前田 拓見	万葉集
		「野比のび太」	詩	高岡南高等学校	2	稲垣 有沙	ドラえもん
佳作	中学生	いたち川の清らかな水を見て	散文	富山市立速星中学校	3	高畑 美月	螢川・泥の河
		戦争の記憶を後世に伝える	散文	南砺市立井口中学校	3	西野 綾夏	男たちの大和
		ふるさとの四季	詩	富山市立速星中学校	1	栗山 未遥	ふるさとの空
	高校生	ある女の一生	詩	高岡西高等学校	2	土井 香花	おおかみこどもの雨と雪
		立山冠雪	詩	富山西高等学校	1	岡本 竜太	越中万葉

○文芸（短歌・俳句）部門

賞	題名	分野	学校	学年	名前	題材	
金賞	中学生	無題	俳句	富山市立速星中学校	1	笹山 知聖	富山の風物詩
	高校生	劔岳	俳句	富山高等専門学校	1	山下 ゆい	劔岳 点の記
銀賞	中学生	無題	短歌	富山市立速星中学校	3	古村 萌々香	月影ベイベ
		無題	俳句	富山市立北部中学校	3	五十嵐 裕紀	神通峡
	高校生	無題	短歌	八尾高等学校	2	小林 結那	万葉集
		無題	短歌	八尾高等学校	2	中田 あかり	万葉集
銅賞	中学生	曳山	短歌	射水市立小杉中学校	2	竹内 遥	人生の約束
		幻想の世界へ導かれる私達	短歌	富山市立速星中学校	3	小西 穂乃花	月影ベイベ
		無題	俳句	富山市立速星中学校	1	林 煌己	高岡大仏
	高校生	万葉歴史館を訪れて	短歌	高岡南高等学校	2	大橋 亮介	万葉歴史館
		無題	俳句	高岡南高等学校	2	栗林 実希	伏木中学校の歌
		秘密を守る	俳句	富山高等学校	1	多喜 圭吾	おおかみこどもの雨と雪
佳作	中学生	無題	短歌	高岡市立高岡西部中学校	3	鈴木 藍里	黒部の太陽
		無題	俳句	黒部市立桜井中学校	1	桐田 遼治	くずの花
	高校生	高志の指すもの	俳句	大門高等学校	1	稲崎 裕介	秋燕・流転の海
		高岡400年の“伝統”	俳句	高岡西高等学校	2	細 美翔	デンサン

○美術部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	富山の春	富山市立速星中学校	3	林 花音	砺波チューリップ成功の秘密
	高校生	杉沢の沢杉	富山高等専門学校	1	山下 ゆい	とやま巨木探訪
金賞	中学生	スタートライン	富山市立堀川中学校	2	今村 莉々香	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	緑の故郷	富山中部高等学校	2	浜浦 琴音	富山の百山
銀賞	中学生	劔岳 夕景	富山市立堀川中学校	3	石田 康一郎	劔岳 点の記
		富山の自然と「花の家」	富山市立速星中学校	3	吉田 栞	おおかみこどもの雨と雪
	高校生	ただいまとおかえり	富山北部高等学校	1	中村 空亜	おおかみこどもの雨と雪
内川の昼		富山北部高等学校	1	渡邊 未夏	人生の約束	
銅賞	中学生	出会いの場所	富山市立奥田中学校	3	小西 隼叶	恋仲
		一夜の栄華 永遠の桜	富山市立三成中学校	2	松田 哲太	螢川
		天地をつなぐ橋	富山市立堀川中学校	3	柴原 世奈	立山曼荼羅 絵解きと信仰の世界
	高校生	人の死の先	雄峰高等学校	2	松江 優	高熱隧道
		ひと夏のおもひで	富山中部高等学校	2	芦崎 夕海	富山地学紀行
	万華鏡から覗いて見えた赤い糸	富山中部高等学校	2	長谷川 瑛大	アオハライド	
佳作	中学生	みくりが池	富山市立奥田中学校	1	若土 亜耶奈	おおかみこどもの雨と雪
		大きな大仏	富山市立速星中学校	1	森 琥珀	高岡大仏
	高校生	育った家	富山北部高等学校	1	深川 志帆	おおかみこどもの雨と雪
		陽だまりの環水公園	富山中部高等学校	2	奥田 涼花	アオハライド

○写真部門

賞		題名	学校	学年	名前	題材
知事賞	中学生	未来へ！	小矢部市立津沢中学校	2	小山 璃音	ドラえもん
	高校生	恋ひ渡る	富山中部高等学校	2	津田 桜香	万葉集
金賞	中学生	夏の神の山	高岡市立伏木中学校	1	明野 恵	万葉集
	高校生	10代の思い出	富山東高等学校	2	本郷 佐織	ウオツのしんきろう
銀賞	中学生	夏休み	高岡市立五位中学校	3	井下田 萌加	万葉集
		火牛	小矢部市立津沢中学校	1	林 夕季乃	乱世を駆ける-木曾義仲と巴御前
	高校生	楼門一時を超えて	富山南高等学校	2	中市 有耶	海と蠟燭・楼門
火事の知らせ		富山西高等学校	1	柴原 ななせ	富山の伝説	
銅賞	中学生	美しい水の公園	小矢部市立津沢中学校	3	荒井 海里	螢川
		デザイン電車	小矢部市立津沢中学校	1	辻 苺佳	忍者ハットリくん
	高校生	御神木	富山東高等学校	2	内海 美怜	富山の伝説
		Rainbow Sky	泊高等学校	2	永井 未紗貴	富山わがまちここ一番
	夏の余韻	高岡第一高等学校	1	田村 和也	あなたへ	
佳作	高校生	つなぐ	桜井高等学校	1	柳澤 優衣	ハナミズキ
		曳山を仕切る	富山高等学校	2	牛島 千尋	越中讃歌

# 知事賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

未来の私へ　　く伝えたい、あの日の思い出く

富山市立堀川中学校三年　村中　恵李花

空は茜色に染まり、教室を夕日が優しく包む頃。日直の仕事を終え、部活もなく暇な私がファイルから取り出したのは、国語の課題。提出日はまだ先。でも、こんな暇な時間なんて滅多にないから、さくっと終わらせてしまおう！……樂觀視していた十五分前の自分を恨みたい。便箋は依然真っ白のまま。

「はーあ。一体何を書けばいいのよ、『未来の自分への手紙』って。……未来の事なんてわかるわけがないのに……」

そう言って机に突っ伏す。別に、良い考えなんて出てこないけれど。はああと盛大にため息をつく。

「ため息をつくくと、幸せが逃げるんだってさ。」

突然の声に驚き、辺りを見回す私。前方のドア付近によく知った人物を見つけると自分が笑顔になるのがわかる。わかりやすいぞ、雪。

「草ちゃん！何しに来たの？忘れ物？」

ずかずかと教室に入ってきた草ちゃんは机の中からタオルを取り出し、顔を覗いた。

「そ。タオルを机の中に入れてっばなしにして。慌てて戻ってきたら、ため息ついてるお前がいたってわけ。で、何してたんだよ。」

「え？ああ、国語の課題。今日、出されたでしょ？『未来の自分への手紙』ってやつ。」

「あれか。メンドーだよなあ。でも雪ならすぐ書けそうじゃね？なんか問題あんの？」

……草ちゃんは私の事を過大評価しているのではないだろうか。

「大ありよ。未来のことなんてわかるわけがないのに、何を書けって言うの？……今が忙しくて未来のことなんて、考えてる暇ないのに……」先輩は部活を引退し、私は何故か部長になるし、生徒会の仕事だって

ある。おかげで毎日ぐっすりだ。それなのに、何故未来を考えないといけないかがわからない。

「もう、未来の事なんて考えたくない。」

そう言って私は何度目かのため息をつき、頭を抱えた。否、抱えようとした。

「え……？」

草ちゃんが私の手を掴んでいたのだ。

「ちよっと、何すんの！離して！」

「お前、バカじゃねえの？」

「ば、バカ？」

突然の言葉に戸惑いを隠せない私。そんな私を見て、草ちゃんと言った。

「未来のこと考えなかったら、人生楽しくねえぞ！俺は、雪の人生が最高に楽しいものであってほしい。人生にはたくさんの分かれ道がある。そこで立ち止まって悩むから良いんじゃないか？未来って予測できないから楽しいんだろ。それに、雪は文武両道だし選択肢も多いじゃん！最高じゃん、そんな人生！自信持ってって。」

ま、俺はバカだからな、と草ちゃんはイシシと笑い、手を離した。……これだ。私は幾度もこの笑顔に助けられた。この笑顔のおかげで勇気を出せた。そして、今日も。また。

その時、私の中を様々な思いがかけ巡った。伝えたい。今の私から未来の私へ。

「……ありがとう、草ちゃん。私、書くよ。」

草ちゃんに笑いかければ彼も微笑む。私はシャーペンを持ち直し、手紙を書き上げた。

未来の雪へ

あなたにどうしても覚えていてほしいことが二つあります。

一つ目。何らかの分かれ道に立った時、慌てず、立ち止まって悩むこと。人間か狼か。あの時真剣に考えたよね。それを思い出して。

二つ目。笑顔でいること。私は草ちゃんの笑顔に何度も助けられたよね。あなたにも誰かを救える笑顔の持ち主であってほしいな。未来の私って何してるのかな？とっても楽しみ。

じゃあ最後に。お母さんを大事にね。あなたの未来が笑顔あふれる未来でありますように。

# 知事賞（高校生の部）

題材『街道をゆく 四』

## 越中諸道を歩いて

高岡高等学校二年 細川 依純

御仏の

合わせたる手の

かたちして

月に祈りぬ

茅葺きの宿

## 【散文・詩部門】

### 金賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

「おおかみこどもの雨と雪」を読んで

富山市立速星中学校二年 小林 由依

どう生きればいいのか。

花は大学生時代、おおかみおとこと恋に落ちます。そして、二人の間いきょうだいが生まれます。「おおかみこどもの雨と雪」です。

この物語では、きょうだいが人間として生きるか、またはおおかみとして生きるかを描いた物語です。人生とは、人にとって、一度きりのもので。ですがそれがずっと楽しいワケではありません。人生の中では、様々な問題があるし、その度に私たちは、何かを選ばなくてはなりません。

「選ぶ」というのは、簡単ですぐ決められる、といった軽いものはありません。そして、その選択によっては、人生を大きく変えるものもあります。この物語では、色々な選択がでてきます。そしてその中で一番大きなものは、「人生の選択」です。雨と雪はこの問題に大きく悩まされます。

「学校へ行く。」「友達をつくる。」「勉強をする。」これは雪が選んだ人生です。そして、「山へ行く。」「自分で食料を集める。」これは雨が選んだ人生です。普通、選択をする時はある程度自分の幸せを考えて選ぶと思います。ですが、この2人は違いました。雪は、「これ以上、他の人を傷つけない。」また、雨は、「自分が師の代わりにおおか

みとして、森を守る。」という、自分以外の人の事を考えてした選択だったのです。

雨と雪は自分達がおおかみこどもである、ということを理解して、他の人の事を考えて選択をしました。みんなが自分のため、自分のため、としている事を自分以外の他の人のために選びました。私はこの部分をみたときこれまで自分が出してきた答えを少し恥ずかしく思いました。多分この選択をしたのは、母である花のためだとも思っています。どういったことかという、雪は普通の人としてちゃんとやっていくことによって、雨は、おおかみの姿でしっかり山を守れるということ、花に伝えて安心してほしかったのではないのかと思います。また、このストーリーの中では将来大人になったところまでは描かれていませんでしたが、雪はおおかみの姿を子どものころに捨てて、社会人として、友達を社内でつくり、たのしく仕事をきびきびこなしているのではないかと思っています。また、雨は山の長のような存在となり、晴れの日も、雨の日も、雪の日も、風の日も山の動物をまとめ、山をまもっているのだと思います。そして、それを花はあたたかい目で見守っていると思います。

この2人のきょうだいは自分の手で自分の幸せをつかみにいっています。そして自分の「選択」で他人を幸せにしようとしています。

私はこれからの人生で「選択」を強いられた時、自分の事を絶対、先に考えてしまおうと思います。ですが「選ぶことの大事さ」を心にとめて、行動していきたいと思います。

# 金賞（高校生の部）

題材『サマーウォーズ』

「人」は人で変わる

富山高等学校一年 濱本 萌々子

人は人で変わる

人は人で変わる

自信がない青年は

戸惑う家族

老婆やその家族に

その青年と少女に

励まされ

気付かされ

危機に立ち向かう

二人の背中を押す

人は人で変わる

人は人で変わる

何も知らない少女は

背中を押された

自信のない青年を

青年と少女は

見て

家族の力で

やるべきものを

別人に成長した

見つけた

人が人に

つながって結び付き

人は成長し

見えない何かに勝つ

# 銀賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

## 私のこころを引きつけるもの

富山市立堀川中学校一年 森川 真尋

雨と雪の年齢別の身長を刻んだ柱。二人がそれぞれ生きる道を決めた年齢の身長を、私はもう超えていた。

上市町浅生の里山。かつては、二百人規模の集落だったが、今では百三十年余りの時を経て、ひっそりと立派な古民家が一軒たたずんでいる。今は家主を失ったおおかみこどもの花の家に、映画公開から七年たった今でも世界各国から毎年一万人が訪れると聞いた。ここに訪れた人が、SNSで発信しているようだ。

「何が人々の心を引きつけるのだろうか。」

この物語には、富山の雄大な立山連峰や棚田など、美しい景観や風景が数多く登場する。「おおかみこども」の姉弟の成長から自立するまでが描かれているこの物語の舞台には、現代で失われつつある自然と共存する暮らしがある。

縁側から見える自給自足ができる畑の風景。囲炉裏部屋や木風呂。ミシミシと音がする床を進むと、石作りの台所にはお釜が置かれていた。寝室に張られた蚊帳も初めて触って見て驚いた。

縁側から裏山に心地よい風が吹き抜ける雨と雪のランドセルが置かれた勉強部屋からは、時折かもしかや猿が顔をのぞかせ裏山がながめられる。深い緑の杉林には、みょうがも群生して見事だ。

令和から明治時代へいっきにタイムスリップしたような不思議な気持ちになった。父は案内してくれた方と子供時代の蚊帳のある暮らしを語り合っていたが、便利で豊かな生活をしている平成生まれの私に

とってここでの生活はイメージしづらかった。

大自然の中でのびのびと育つ環境と、母親や周りの大人の人々からの愛情が、雨と雪に自分らしく生きることを選択させた。雪は、学校での友達との関わりの中で葛藤し、自分をみつめなおした。雨は、自然によって臆病な性格からたくましさを身につけたように、私は環境が人の生き方を決めると思う。

中学一年生の私だが、まだ生きる道を選択できてない。けれども、今はそれでいいと思っている。それは、私の心を引きつけるものを自分自身で見つけてきたからである。

富山の豊かな自然環境で暮らしている私は自然との関わりが好きだ。時々家族で普段の生活から離れて、トレッキングやキャンプに行く。夜中にテントが飛ばされそうになる強風や凍える寒さに震えたり、自然の厳しさを体験したこともある。それでも、自然の中でしか味わうことができない感動が得られる。一緒に連れていく愛犬も大切な存在だ。優しい気持ちになれる。家族、友達、先生方も私の人生を決めていくなかで大きな関わりを占めている。今まで友達に助けられたことや先生にかけていた言葉は、私に大きな力を与えている。

これからも年齢を重ねながら人との関わりを大切にしていく中で、自分らしく素直に生きることが、後悔がない選択につながると思う。私の心を引きつけるものを見つけたい。



# 銀賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

## それぞれ別の生きる道

富山市立速星中学校三年 原 夢々

崖のてっぺんであびる朝日

普通という言葉にとられない人生

アスファルトの上であびる太陽

どの道を選んでも不正解はない

何もしなくても何かをしてもいい

これがぼくの選んだ道

これがわたしの選んだ道

この人生は一度きり

その一秒は一度きり

もう戻ってはこない

だから今日も自分らしく 生きる

# 銀賞（高校生の部）

題材『サマーウォーズ』

## 人を強くさせるもの

高岡高等学校二年 寺拝 和奏

先日ふとテレビのチャンネルを変えると金曜ロードショーで「サマーウォーズ」が入っていた。私はあまりアニメ映画を見ない方であるが、この作品は大のお気に入りである。しかも、作者の細田守さんは富山県出身であるため、とても親近感がわいてしょうがないのだ。

まず、サマーウォーズの簡単なあらすじについて紹介しよう。主人公である高校二年生の健二は先輩の夏希に誘われ、夏希の実家に遊びに行くことになる。いざ夏希の実家に行くと、そこには夏希の曾祖母である栄おばあちゃんの誕生日を祝うため総勢二十六人の親戚が一同に集まっていた。楽しいひと時もつかの間、インターネット上の仮想世界「Z」が乗っ取られ、世界は一瞬で混乱してしまう。混乱の中、一つも動じなかった栄おばあちゃんは、昔の人脈をもとにいろいろな人に電話をかけ何とか事態の收拾をつけようとす。しかし、翌朝「Z」が乗っ取られたことが原因で栄おばあちゃんは命を落とす。悲しみに明け暮れるものの栄おばあちゃんが生涯を通して伝えたかったことを理解した健二と夏希たちがその状況を打破するため奮闘するというお話だ。

栄おばあちゃんが生涯を通して伝えたかったことは何か、それは「人と人とのつながりの大切さ」である。

作中の、知人のみんなに電話をかけるシーンで、

「大事なのは、昔のように人と人が声をかけあって、コミュニケーションを取ることで」

と言うところがある。現代は、携帯電話が普及し、SMSの利用などでもできるようになり、いつでもどこでも連絡を取り合うことができ、話すこともできるという便利な世界だ。一方で、人と人とのつながりは希薄なものとなり、SMS上だけの関係というのも増えてきている。そんな世の中だからこそ人と人が手を取り合ってお互いに助け合っていくということが大切なのだ。

また栄おばあちゃんは遺書の中で

「家族同士で手を離さぬように、人生に負けないように、もし、辛い時や苦しい時があっても、いつもと変わらず、家族みんなをそばで、ご飯を食べること。一番いけないのは、おなかが空いていることと、一人でいることだから。」

と言う言葉を残している。人と人とのつながり、特に家族のつながりは、密接になることも多いがその分すれ違う事も多い。食事はもちろんおなかを満たすことがその目的ではあるが、家族を一つにする団らんのある場でもある。その貴重な時間を無駄にせず家族みんなと一緒に過ごすことが大切なのだ。

人は、つながりを失うと弱くなる。それは、自分の気持ちを受け止めて、自分と共にいてくれる人がいなくなるからだ。裏を返せば、人はつながりが強いほど、強くなる。それだけ自分を支えてくれる人がおおいということだから。つまり、この世で最も強いものは、権威やお金まじりや武力ではなく、「人と人とのつながり」なのだ。それを忘れてはいけない。だから私は、これから人と人とのつながりをおろそかにせず強い人間になりたい。

## 銀賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

ほしかったもの

大門高等学校一年 大川 直哉

ぼくはドラえもんがほしかった  
なにでもだせるドラえもんがほしかった  
なにでもできるドラえもんがほしかった  
ドラえもんがいればなにでもできる  
ドラえもんがほしかった  
だけど今分かる  
僕が本当に欲しかったのは  
ジャイアンに殴られたときなくさめてくれるドラえもん  
ママのお説教と一緒に付き合ってくれるドラえもん  
前向きに進もうとする背中を押してくれるドラえもん  
気付けば  
僕はそんな「ドラえもんたち」に支えられていた

## 銅賞（中学生の部）

題材『劔岳 点の記』

劔岳 点の記をみて

富山市立速星中学校二年 柚木 風南

私は「劔岳 点の記」という富山県の劔岳を舞台にした映画を見ました。この映画は、日本地図に最後までかかれていなかった劔岳への初登頂と測量をして、日本地図を完成させるという話でした。  
この映画をみて、目的をはたすために一生懸命がんばっている人達の姿がとても心に残りました。ただ山に登るのではなくて、測量をして日本地図を完成させるために山に登るというふうに「何のためにそれをするのか」をはっきりさせてやるのが大事だということが分かりました。「何のためにやるのか」を考えれば、がんばろうという気持ちが生まれてくるのではないかと思いました。  
私が残ったことはもう一つあります。それは、劔岳の登頂を命令された測量隊と、それと同じころに劔岳に登ろうとした山岳会という二つのグループがあって、初めはお互いライバルとしていて仲が良くなかったけれど、だんだん仲間のように助け合ったり、支え合ったりするようになっていたということです。山を通して二つのグループの心がつながっていく様子が心に残りました。  
私も今、目標としていくことがあります。そのためにどうするのか、何のためにそうするのかを考えたり、仲間を大切にしたりして目標を達成できるようにがんばりたいです。  
また、劔岳には私たちが知らない物語があることが分かりました。劔岳だけではなく、富山のいろいろな場所にも私たちが知らない物語がたくさんあると思います。それにたくさんふれて、富山の良さをもっと発見したいです。発見した良さをみんなを守っていたり、富山ならではの風景や文化を大切にしていきたいです。

## 銅賞（中学生の部）

題材『サマーウォーズ』

### 未練

射水市立小杉中学校一年 江島 優吾

幸せを  
楽しさを  
もう一度と  
求めるのは普通  
幸せの先には未練  
幸せな人ほど  
未練は多い  
最後の瞬間  
やりきれないことを  
数えれば  
数えるほど  
「幸せだな」と  
感じられる  
笑顔で最後を  
むかえる人は  
きっとそうであらう

## 銅賞（中学生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

### 本当の自分

富山市立速星中学校三年 渡辺 紗彩

言いたいけれど言えなくて  
きづいたら自分にうそをついていた  
隠したいけど隠しきれず  
本当の自分を見られてくやしかった  
でも 言いたいことは素直に言って  
隠すことなんて 何もないんじゃない？  
自分にうそついて  
くやしい思いするんだったら  
本当の自分になれればいいのに  
それでもその「本当の自分」に  
なれない今の自分が  
「本当の今の自分」なのかもしれない

# 銅賞（高校生の部）

題材『越中万葉』

## 私と「朝床」

富山西高等学校三年 中島 美紅

「令和」という新しい元号が万葉集から考えられたということもあり、なにかと注目をあびている万葉集ですが、私にとってなじみの深い歌が一首あります。

朝床に 聞けば遙けし 射水川

朝漕ぎしつ つ 歌ふ 船人

私にとって万葉集といえ、真っ先にこの歌が思い浮かびます。

私は幼時を富山県の舟橋村という小さな村で過ごしました。当時は車の通りも少ないのどかな場所でした。私が家族四人で住んでいた、川沿いの三階建てのアパート。その小さな部屋の中に、私の幼時の思い出は詰まっています。例えば、まさにこの歌の様な朝床の記憶があります。まだ少し肌寒い春の朝、背中にかけられた毛布のあたたかさと共に意識を覚ませば、開けられた窓からそよぐ静かな風と、遠くから「ケン、ケン」と鳴くキジの声。この歌を聞くと、このような朝床の記憶をきっかけに、ゆったりとした時間の流れと、家族に愛されて育った幸せな日々の思い出が、次々とよみがえります。

そして私は、学生時代を駅や商業施設がある人通りの多い町で過ごしました。朝起きると聞こえるのは、せわしなく通る車やバイクの音。幼時に過ごした、あのゆったりとした日常はもう帰ってこないと知り、少し悲しくもなりました。

時代の変化や、自身の成長により、新しく得るもの、そして失って

しまうものがあります。「朝床に聞けば遙けし射水川朝漕ぎしつ つ歌う船人。」この歌を口ずさむ時、私が感じるのは、二度と戻ることは出来ないという喪失感です。しかしまた、それと同時に、二度とはない今を大切に過ごそうという気持ちにもなります。家持もまた、この越中での日々を、長くは続かないものと悟った上で、自然のきらめく瞬間瞬間を短歌に残そうとしたのではないかと私には思われてなりません。

私は将来、小学校の先生になりたいと考えています。心に悩みを抱える子供たちが、相談してもよいと思えるような存在になりたいと思います。子供たちが一人一人の生い立ちや性格の違い、成長のスピードの違いを理解し、受け入れた上で、教師として適切なアドバイスをしながら、一緒に問題を解決していききたいです。そして心豊かで、知ることや学ぶことが楽しいと感じる生徒をたくさん育てていきたいです。

そして私には、将来ぜひやってみたいことがあります。それはふるさと教育です。豊かな自然にあふれた富山で、家族に愛されて育ったという記憶を、ぜひ子供たちに残したいと思います。富山の豊かな自然をよんだ文学作品は、例えば家持歌などに多くありますが、子供たちが富山を離れて暮らす時、口ずさむ歌が一首でもあれば、私にとつての「朝床」がそうであるように、それは心の支えとなり、力を与えてくれるのではないかと考えるからです。

令和という新しい時代がスタートした今、私には家持が、私たちにふるさと富山の自然を再認識するよう、語りかけているように感じます。私はこれからも、自分が生まれ育ったこの富山の地を愛し、ここに生きる人たちとしっかりと手を取り合って、豊かな未来を築いていきたいと思えます。

# 銅賞（高校生の部）

題材『万葉集』

## 歌からふるさとを知る

高岡高等学校二年 前田 拓見

「立山に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神からならし」

これは、大伴家持が越中国で国守を務めていた際、自分の遙か彼方にそびえ立つ雄大で美しい立山連峰を目のあたりにして詠んだ歌だ。僕は初めてこの一見単純にも見える和歌を見たとき、何かこの歌から感じられる、強くて繊細なあるものに一瞬で圧倒された。なぜこのたった一つの歌でこんなにも心が奪われるのか。その場では気づかなかったが、この作品の背景を考えていくことでその理由が見えてきた。

富山県東部に立山連峰は位置している。劔岳、白馬岳、立山といった山々からなっている。大伴家持が活躍した万葉の時代より、立山は「神々が宿る山」とされてきた。冒頭で紹介した彼の和歌の末にもある通り、彼も立山が「神の山」であることに強く圧倒されている。しかし、「神の山」に感動を覚えることはおそらく誰もがすることだろう。千三百年も前から今に至るまで残るこの短い歌の中には、他にも彼が心から感動した立山の魅力がはつきりと映し出されていた。

ふともう一度、冒頭の和歌を詠んでみる。彼が立山を見て、この和歌を詠んだのはまさに「常夏」。つまり夏の真最中であった。しかし立山には雪が降っている。ここが、彼が思う立山の魅力であった。彼は、真夏に立山の頂が雪で白々と輝いている様子に目をとられた。今の僕たちにとっては当たり前のことのように捉えられるが、「神の山」の頂

に残る雪溪が確かに彼の心を打ったのだ。そしてそれは決して飽きるものではなく、彼の心に生き続け、歌を詠んだのだろう。今でも、おそらく彼が見たであろう白馬岳にある雪溪や劔岳にある雪溪は、日本三大雪渓とも言われており、風物詩として多くの観光客で賑わっている。彼は、これらが織りなす神秘を万葉の時代に肌で感じ、自分の歌で自分の気持ち表現したのだ。

このように、彼の作品からは自然から感じる彼の率直な感想だけでなく、一般的な越中国の魅力というものも直で感じられる。歌を一度詠むだけで、歌を詠んだときのまわりの情景が思い浮かぶ。ほんの少しの文章で、こんなにも多くのことを教えてくれる彼の作品は、今回紹介した歌の他にも万葉集には四百首ほど収められている。今の自分たちの価値観と、その時代を生きた家持のような人々の価値観の両方にふれることで見えてくるものがあるのではないかと僕は思う。彼の作品から感じられた強くて繊細なあるものは、彼の、自分の気持ちやその土地の魅力を色々な人に発信したいという強い心だったのである。その心を受け取るのはまさに僕たちであり、それを後世に伝えていくということはとても大切なことだと思う。「今」を生きる僕たちが彼らから学ぶべきことはまだまだたくさんあり、このふるさと富山の魅力も見つけ切れていない。古きを温め、新しきを知ることが今の僕たちがすべきことではないのだろうか。

# 銅賞（高校生の部）

題材『ドラえもん』

## 「野比のび太」

高岡南高等学校二年 稲垣 有沙

「のび太」はよく失敗する

でも失敗を恐れてはいない

だから何度でも立ち上がる

「のび太」はよく笑いものにされる

でも決して夢を諦めない

だから応援する友達がいる

「のび太」はよくいじめられる

でも誰に対しても優しい

だから国民に愛される

のび太の生き方も悪くない

# 佳作（中学生の部）

題材『螢川・泥の河』

## いたち川の清らかな水を見て

富山市立速星中学校三年 高畑 美月

宮本輝の著書に「螢川・泥の河」という本がある。「螢川」は富山のいたち川が、「泥の河」は大阪の淀川がモチーフとなっている。

「泥の河」で書かれている淀川は今とは流れが異なるが、現代と同じく大阪の人々の暮らしを支える大切な川だった。私は大阪の神社で、しじみで作られた奉納品を見たことがある。昔の淀川はしじみがとれることで有名だったそう。しじみは泥の中に住む。私は「泥の河」を読んだ時に、この話を思い出して、昔の淀川は流れが緩やかでどろどろとしていたのかと考えた。一方、「螢川」で取り上げられているいたち川は、富山市中心部を曲がりくねって流れている川である。川は浅く澄んだ水が流れ、散歩道が整備されている。また、川のそばに湧き水がでている場所があり、石倉町の延命地藏尊の水として、多くの人が水をくみに訪れている。その湧き水は「万病に効く水」として有名だ。また、ご飯がふっくら炊き上がる、活かしていた花が長持ちするなど特別な水として、日常的に多くの人に親しまれている。私の祖母も延命地藏尊の水をよくくみに行っていた。祖母の車には水くみ用のタンクがびっしりと積まれていたのを覚えている。祖母は、「延命地藏尊の水は水道の水よりも健康にいい」と料理や飲み水に使っていた。

私もこの夏久々に延命地藏尊に立ち寄ってみた。水くみ場ではまるで川の水のように常時水が流れている。朝早くだというのに人が集まっていた。水をくむ人、写真を撮る人、中にはお参りしている人もいた。延命地藏尊の水というだけあって、水と信仰が深く結びついているのが伝わってきた。ただ、面白いことに

この延命地藏尊の水、川をはさんで反対側の泉町にも子宝延命地藏尊の水として湧き出ているのだ。しかし、こちらは人があまりいない。周りの人に聞いてみると、石倉町の方がご利益があるという。私の目から見るとどちらも同じ水源から湧き出ているのだが、場所が違うだけでどうも変わるものだろうか。

それにしても、富山の人は本当に湧き水が好きなのだと思う。水くみ場では自転車のカゴにペットボトルを何本も入れている人を見た。車で来ている人もいた。そもそも、富山では湧き水というものがあまり特別でない。延命地藏尊の水以外にも湧き水で有名な場所がたくさんある。そのためか、富山の人は水を大切にしていないうように見える。私の母は大阪出身だ。大阪に行くときは琵琶湖の水位を気にしている。水位が下がると生活用の水が不足して、取水制限がかかることがあるからだ。あまりにもひどいと夜中に断水することもあったらしい。その点、富山は水に困らないイメージだ。富山は雪国である。冬の間立山に降った雪が地中にしみこみ、長い年月をかけて過され、地下水として湧き出してくる。川も多く、どこに行っても水に困ることはない。実際、富山では節水の意識があまりない。私の父や祖母を見ても水をとくさん使うことへの抵抗がない。周りに聞いてみると、水が不足するという考えはなかった。富山県全体を見ても、融雪装置など井戸水を使った設備がある。

しかし、いたち川の清らかな流れを見ながら私は思う。富山の人はもっと水に感謝するべきではないかと。川にはゴミが投げ捨てられていたり、水くみ場を長時間占領する人がいたり。水に対して思いがあるなら、水という存在も大切にすべきではないのか。

私はこの場所が水に困らないからといって水を大切にしないことは間違っていると思う。富山の川の多くが立山の雪解け水だ。今は水があっても今後どうなるかわからない。水を大切にする気持ち、水に恵まれてる富山ならではのこの気持ちを郷土愛と共に大切にすべきではないだろうか。



# 佳作（中学生の部）

題材『男たちの大和』

## 戦争の記憶を後世に伝える

南砺市立井口中学校三年 西野 綾夏

たましひの遊びすぎたる夜の明けを螢火うすく草に濡れみつ  
辺見 じゅん

この短歌は、辺見さんの「闇の祝祭」の中の一首で、太平洋戦争で亡くなった学徒兵への鎮魂歌です。以前に、高志の国文学館の一周年記念特別展で富山県出身の作家辺見じゅんさんが紹介されました。辺見さんはお父さんとその世代の人々が体験した戦争から、数々のノンフィクションの名作を作り出された方です。私はこの夏、その中でも代表作ともいえる「男たちの大和」を読みました。

主人公の神尾は、十四のとき戦場で兄の奮闘を聞き、海軍に志願します。私は十四歳で自分より若い人が戦場で戦いたいというのに驚きました。当時は国のために死ぬ、命を捧げるという軍国主義の考えが浸透しており、一方的な教育の恐ろしさを感ずりました。

そして一年余りがたち、神尾は海軍特別少年兵として戦艦大和の乗組員となりました。そんな彼が、初めて自由時間を得て実家へ帰ったシーンが心に残りました。

彼の母スエは、この日のために闇市でしか手に入らない砂糖を全部使い、作った汁粉を食べる神尾と友人を見守った後「ふたりとも、待つとるけんね」と、生きて帰ることを命令するように言うのです。このスエの言葉にはすごく重みがあり、「万歳、万歳」で息子を送らなくてはならない母の悲しさや寂しさが表れていました。

ミッドウェー海戦で敗れてから、米軍に次々と東南アジアを占拠され、日本の絶対国防圏であるサイパン島が陥落、マリアナ沖、レイテ沖海戦に敗れ、日本はどんどん追いつめられていきま

そして、大和は艦隊司令部から「航空機支援のない片道分の燃料での出撃」を命令されます。いわゆる特攻です。無謀な作戦であっても、命令には従わなくてはなりません。出撃前、貴重な最後の自由時間に激しい議論を交わしている部屋がありました。兵学校の出身の士官が「国のため、天皇陛下のために散る、それで十分だ」といい、学徒出身の士官が、「おれたちが意味もなく死ぬことで、本当に日本は救われるか」といいいます。

特攻前に自分の死の意味を議論する、その中に白淵大尉が止めに入ります。大尉は歴史を振り返り「敗れて目覚めることで、未来に日本が、新しく生まれかわるために、僕らは散る、先導になる」というのでした。

当時、当たり前のように、若い人たちが戦場に送られていきました。多くの人が国のために死んでいきました。「敗れて目覚める」日本は太平洋戦争に敗戦したことで、戦争をやめようと決心しました。それらがこのような人々の尊い犠牲の上にあったことを忘れてはならないと思いました。

一九四五年四月七日、沖繩坊の沖で死闘の末、大和は沈みます。乗組員数役三千三百人のうち生還できた者は二六〇名でした。神尾もそのうちの一人でしたが、そこから過酷な現実が待っていました。一緒に汁粉を食べた友人の西の最後を彼の母に報告に行ったとき、「あんたひとり、ぬけぬけとよう還ってきたのう」と言われたのです。

この言葉が示すように、神尾や人々にとって戦後は決して恵まれたものではなかったでしょう。奇跡的に生き残って戻ってきたてもこんな苦しみが待っていたのだなと悲しくなりました。戦争という嵐に巻き込まれ、抗うことのできない人間の人生の儚さを感じました。

彼ら、戦没者や戦後の混乱期を生きた人々の犠牲によって、今の平和があることを厳粛に受け止め、人々の死や犠牲を無駄にしないよう、私達に課せられた課題は何かを考えていきたいと思いました。

今の、「令和」という時代が平和であることに、心から感謝したいです。

# 佳作（中学生の部）

題材『ふるさとの空』

## ふるさとの四季

富山市立速星中学校一年 栗山 未遥

雪融け水をたたえ流れる川の清き音  
淡紅色に咲きほこる千本桜

雨上がりの土の匂いと

木立に響きわたるせみの声

涼しくなった風と舞う二百十日のおわら

たわわに揺れる稲穂

五箇山のこきりこと黄金色の実り

きらきら跳ねる魚たち

真っ白に化粧して

静かにたたずむ立山連峰

そっと口ずさむと

心の中にあふれくる情景

これからも自然と共に歩きたい

ふるさとの空の下で

## 佳作（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

### ある女の一生

高岡西高等学校二年 土井 香花

都会での生活に疲れ果てた女がやって来た  
立山は静かに招き入れた

女は農業にいそしみ子は野でかけ回った  
立山は木や花を茂らせつき合った

自我を持ち始めた子に女は向き合い続けた  
立山は冷静に見守った

子を旅立たせ母は一人になった  
立山はそっと寄り添った

どこかで聞こえた遠吠えに  
母と立山は思わず笑った

## 佳作（高校生の部）

題材『越中方葉』

### 立山冠雪

富山西高等学校一年 岡本 竜太

立山の頂に

生まれ出るめぐみの光

夏の暑さにも負けることなく

輝き続けるその雪は

神々のごとく

我らを見おろし

融け出た雪は

大地をめぐり

人々の命を育む

【短歌・俳句部門】

金賞（高校生の部）

題材『劔岳 点の記』

劔岳

富山高等専門学校一年 山下 ゆい

金賞（中学生の部）

題材『富山の風物詩』

富山市立速星中学校一年 笹山 知聖

天凍り

ホタルイカ

砕け散る星

海で煌めく

劔研ぐ

流星群

## 銀賞（中学生の部）

題材『月影ペイペ』

富山市立速星中学校三年 古村 萌々香

秋風に

胡弓の調べ

心地よく

豊作願ひ

夜が更けるまで

## 銀賞（中学生の部）

題材『神通峡』

富山市立北部中学校三年 五十嵐 裕紀

神通峡

秋深まりて

炎立ほむらつ

## 銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

八尾高等学校二年 小林 結那

早月川の

水澄む加積の

早春の

リンゴの花の

ごとき恋せむ

## 銀賞（高校生の部）

題材『万葉集』

八尾高等学校二年 中田 あかり

家持の

背を見つめつつ

ふるさとに

私は令和の

未来を歌う

## 銅賞（中学生の部）

題材『人生の約束』

曳山

射水市立小杉中学校二年 竹内 遥

亡き友よ

山車に灯りし

我が想い

法被に灯るは

君の魂

## 銅賞（中学生の部）

題材『月影ペイペ』

幻想の世界へ導かれる私達

富山市立速星中学校三年 小西 穂乃花

ぼんぼりの

淡き光が

笠照らし

今宵もおわら

踊り続けり

## 銅賞（中学生の部）

題材『高岡大仏』

富山市立速星中学校一年 林 煌己

大仏の

結ぶ手にある

夏の空

## 銅賞（高校生の部）

題材『伏木中学校の歌』

高岡南高等学校二年 栗林 実希

雪どけや

港に吹き込む

異界そとの風

## 銅賞（高校生の部）

題材『万葉歴史館』

万葉歴史館を訪れて

高岡南高等学校二年 大橋 亮介

新緑の

二上山を

見上げつつ

令和をにぎわう

万葉の里

## 銅賞（高校生の部）

題材『おおかみこどもの雨と雪』

秘密を守る

富山高等学校一年 多喜 圭吾

秘密持ち

雪降る野原

駆け回る

## 佳作（中学生の部）

題材『黒部の太陽』

高岡市立高岡西部中学校三年 鈴木 藍里

水けむり

堂々あげる

黒四は

多くつないだ

命の奇跡

## 佳作（中学生の部）

題材『くずの花』

黒部市立桜井中学校一年 桐田 遼治

山の湯に

つかる夫婦の

くずの花

## 佳作（高校生の部）

題材『秋燕・流転の海』

高志の指すもの

大門高等学校一年 稲崎 裕介

秋燕

おおぞら一筋

流転雲

## 佳作（高校生の部）

題材『デンサン』

高岡四〇〇年の“伝統”

高岡西高等学校二年 細 美翔

“伝統”を

守る鑄物師に

終わる「時代」



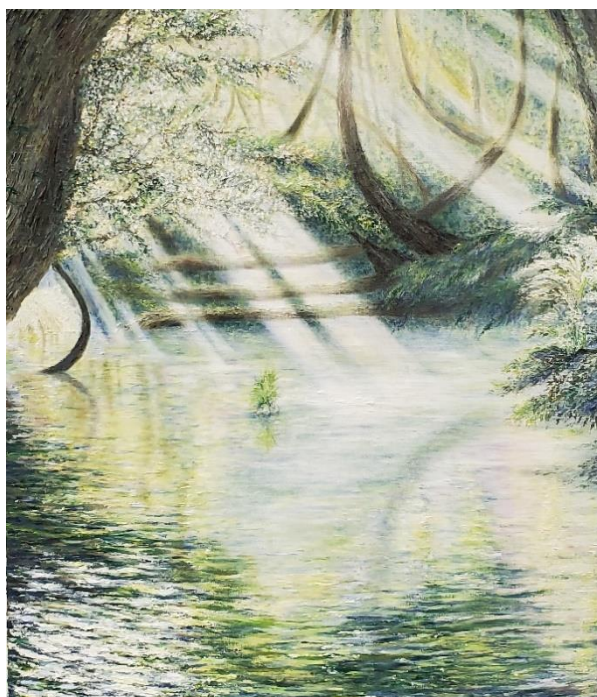
【美術部門】



知事賞(中学生の部)

「富山の春」<題材「砺波チューリップ成功の秘密」>

富山市立速星中学校3年 林 花音



知事賞(高校生の部)

「杉沢の沢杉」<題材「とやま巨木探訪」>

富山高等専門学校1年 山下 ゆい



金賞(中学生の部)

「スタートライン」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山市立堀川中学校 2年 今村 莉々香



金賞(高校生の部)

「緑の故郷」<題材「富山の百山」>

富山中部高等学校2年 浜浦 琴音



銀賞(中学生の部)

「劔岳 夕景」<題材「劔岳 点の記」>

富山市立堀川中学校3年 石田 康一郎



銀賞(中学生の部)

「富山の自然と『花の家』」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山市立速星中学校3年 吉田 菜



銀賞(高校生の部)

「ただいまとおかえり」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

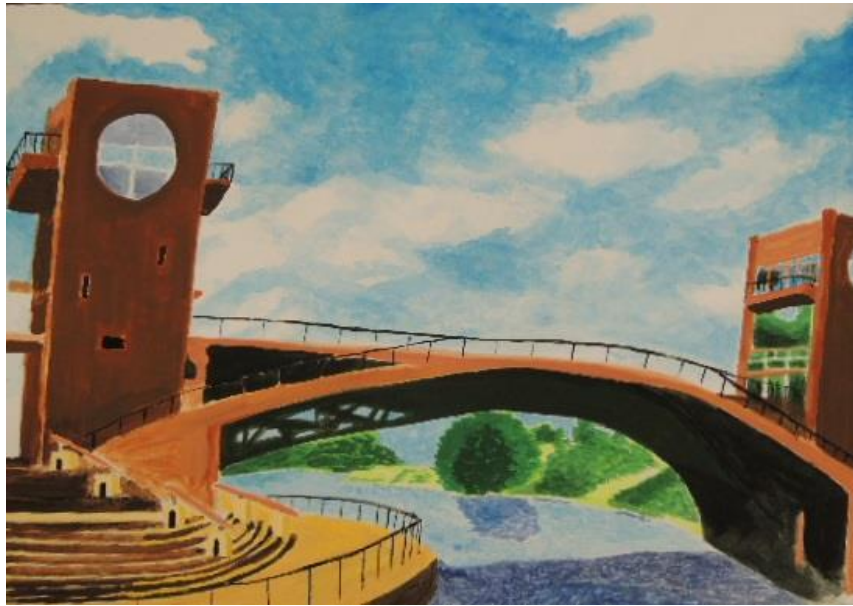
富山北部高等学校1年 中村 空垂



銀賞(高校生の部)

「内川の昼」<題材「人生の約束」>

富山北部高等学校1年 渡邊 未夏



銅賞(中学生の部)

「出会いの場所」<題材「恋仲」>

富山市立奥田中学校3年 小西 隼叶



銅賞(中学生の部)

「一夜の栄華 永遠の桜」<題材「螢川」>

富山市立三成中学校2年 松田 哲太



銅賞(中学生の部)

「天地をつなぐ橋」<題材「立山曼荼羅 絵解きと信仰の世界」>

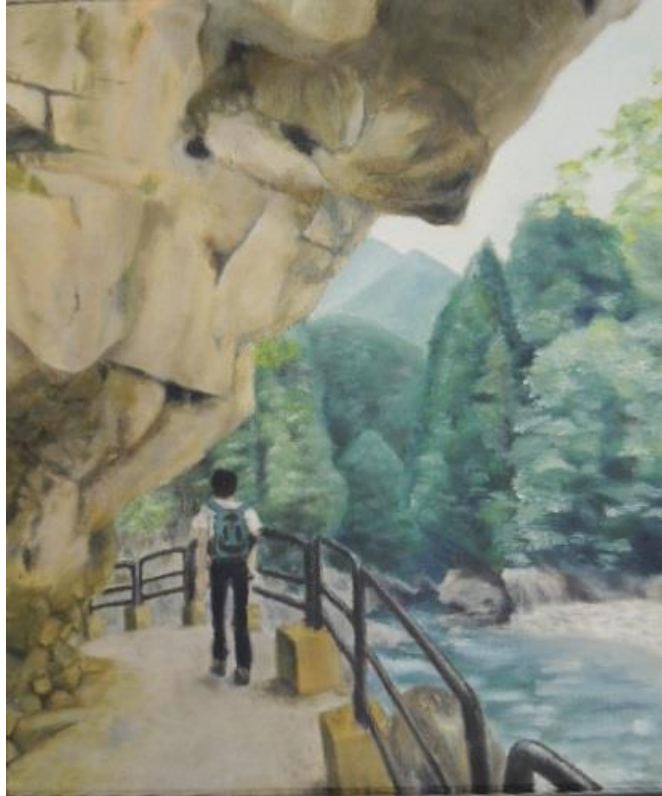
富山市立堀川中学校3年 柴原 世奈



銅賞(高校生の部)

「人の死の先」<題材「高熱隧道」>

雄峰高等学校2年 松江 優



銅賞(高校生の部)

「ひと夏のおもひで」<題材「富山地学紀行」>

富山中部高等学校2年 芦崎 夕海



銅賞(高校生の部)

「万華鏡から覗いて見えた赤い糸」<題材「アオハライド」>

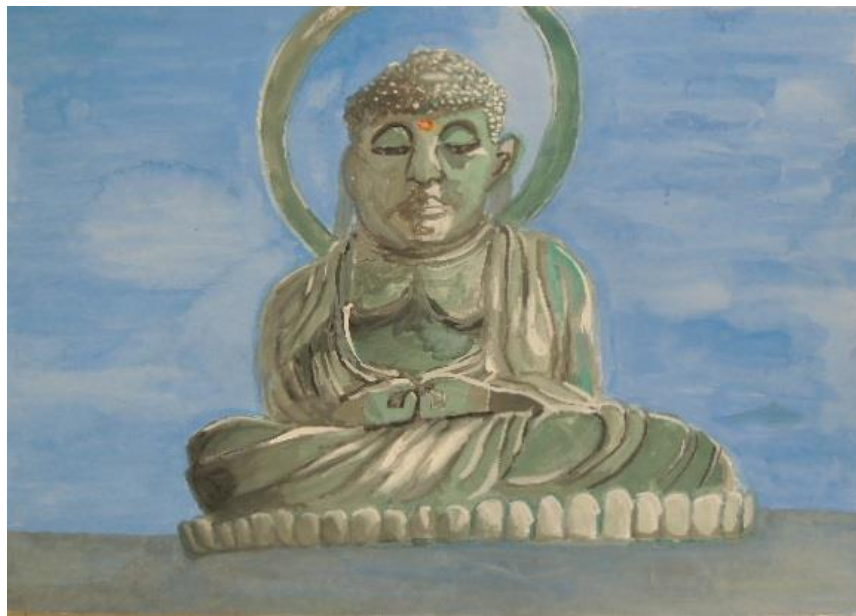
富山中部高等学校2年 長谷川 瑛大



佳作(中学生の部)

「みくりが池」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山市立奥田中学校1年 若土 亜耶奈



佳作(中学生の部)

「大きな大仏」<題材「高岡大仏」>

富山市立速星中学校1年 森 琥珀





佳作(高校生の部)

「育った家」<題材「おおかみこどもの雨と雪」>

富山北部高等学校1年 深川 志帆



佳作(高校生の部)

「陽だまりの環水公園」<題材「アオハラド」>

富山中部高等学校2年 奥田 涼花

【写真部門】



知事賞(中学生の部)

「未来へ！」<題材「ドラえもん」>

小矢部市立津沢中学校2年 小山 璃音



知事賞(高校生の部)

「恋ひ渡る」<題材「万葉集」>

富山中部高等学校2年 津田 桜香



金賞(中学生の部)

「夏の神の山」<題材「万葉集」>

高岡市立伏木中学校1年 明野 恵



金賞(高校生の部)

「10代の思い出」<題材「ウオツのしんきろう」>

富山東高等学校2年 本郷 佐織



銀賞(中学生の部)

「夏休み」<題材「万葉集」>

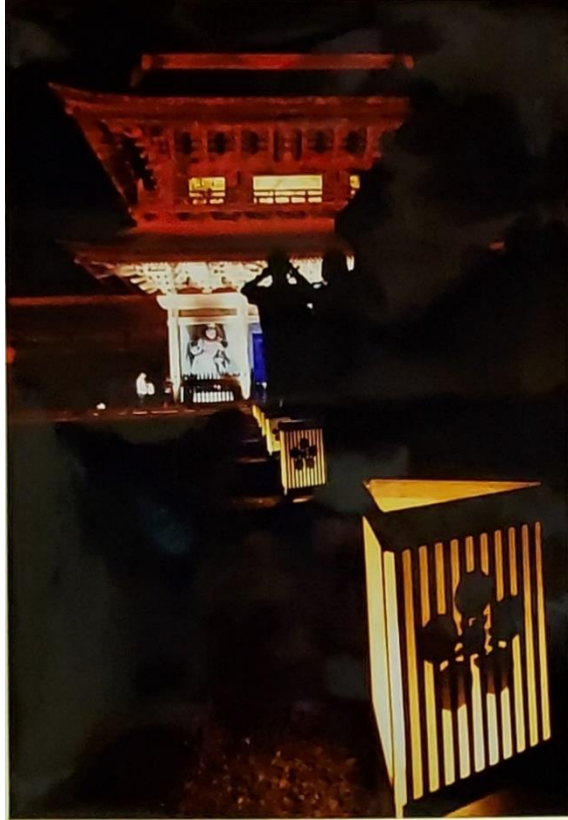
高岡市立五位中学校3年 井下田 萌加



銀賞(中学生の部)

「火牛」<題材「乱世を駆ける-木曾義仲と巴御前」>

小矢部市立津沢中学校1年 林 夕季乃



銀賞(高校生の部)

「楼門一時を超えて」<題材「海と蠟燭・楼門」>

富山南高等学校2年 中市 有耶



銀賞(高校生の部)

「火事の知らせ」<題材「富山の伝説」>

富山西高等学校1年 柴原 ななせ



銅賞(中学生の部)

「美しい水の公園」<題材「蟹川」>

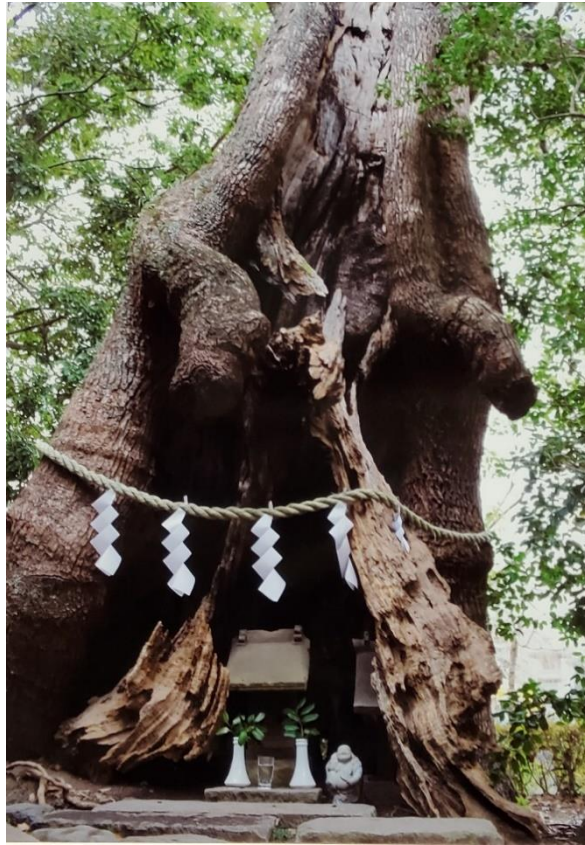
小矢部市立津沢中学校3年 荒井 海里



銅賞(中学生の部)

「デザイン電車」<題材「忍者ハットリくん」>

小矢部市立津沢中学校1年 辻 萁佳



銅賞(高校生の部)

「御神木」<題材「富山の伝説」>

富山東高等学校2年 内海 美怜



銅賞(高校生の部)

「Rainbow Sky」<富山わがまちこ一番>

泊高等学校2年 永井 未紗貴



銅賞(高校生の部)

「夏の余韻」<題材「あなたへ」>

高岡第一高等学校1年 田村 和也



佳作(高校生の部)

「つなぐ」<題材「ハナミズキ」>

桜井高等学校1年 柳澤 優衣





佳作(高校生の部)

「曳山を仕切る」<題材「越中讃歌」>

富山高等学校2年 牛島 千尋